

研究タイトル：

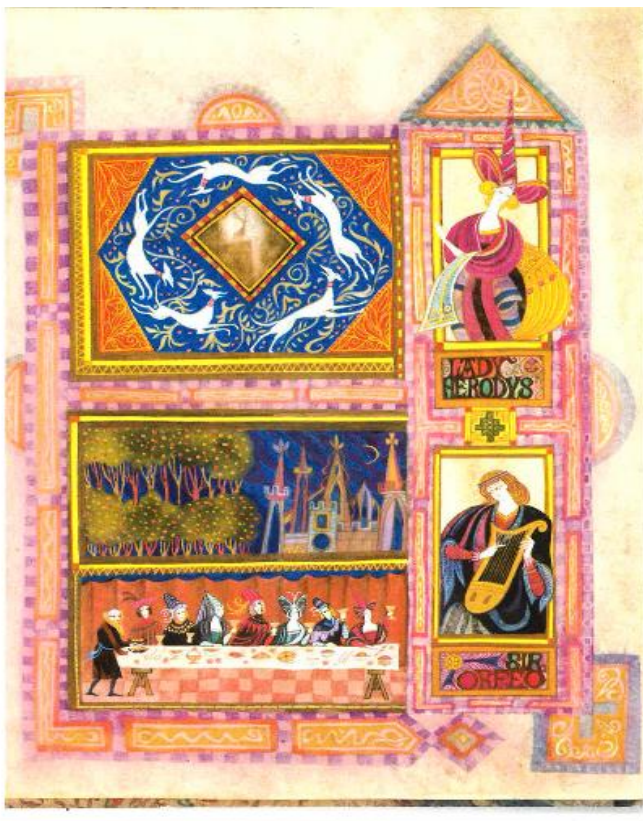
中世英国ロマンスの研究



氏名：	有坂 夏菜子 / ARISAKA Kanako	E-mail：	yagishita@oyama-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	The International Courtly Literature Society、日本英文学会、日本中世英語英文学会東支部、チョーサー研究会		
キーワード：	中世英文学 ロマンс プレトン・レイ		
技術相談 提供可能技術：	中世英文学、特に下記のような物語詩に関すること		

研究内容：

主に14世紀頃にイギリスで語られ、楽しまれた「ロマンス」という物語詩がある。これらの物語は Middle English、つまり中英語で写字生によって写本に書かれ、文字をもって現在まで残されている。



Anthea Davies, *Sir Orfeo*, illustrated by Errol Le Cain (London: Faber and Faber, 1970)

ロマンスという語は非常に幅広い意味を持っているが、文学史的術語としては、中世ヨーロッパにおける、ある一群の物語をさす。12世紀末のフランス人 Jean Bodel はロマンスの素材を「フランスもの」、「ブリテンもの」、「大ローマもの」の三つに分類した。しかし、すべてがこの分類にあてはまるわけではなく、このほかに「イギリスもの」、「ノンサイクルもの」と呼ばれるものがあるとされる。これらの中で「ブリテンもの」には「プレトン・レ」と呼ばれる物語群が含まれる。英国、つまりブリテンとフランスのブルターニュ地方で、ブリトン人によって語られていた物語である。

ロマンスは本来、日本の古事記と同様、人々によって語り継がれてきた口誦文学である。現代の文学は文字で書かれることが創作の前提となっているが、口誦文学は声による創作が基盤である。このような物語には当時の人々の思想が反映されており、現代と変わらぬ人々の願いを窺い知ることができる。

researchmap: <https://researchmap.jp/read0204947>

研究紀要: https://www.oyama-ct.ac.jp/tosyo/researcher/022_arisaka_kanako.html

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)